

故金田弘夫博士の旧蔵資料を大学文書館で受贈

9月21日（金）、大学文書館では、文学部教授を務めた故金田弘夫博士の旧蔵資料5箱を、ご夫人である金田ケイ子氏からご寄贈いただきました。

金田弘夫博士は、1921（大正10）年札幌に生まれ、札幌商業学校（現北海学園札幌高等学校）を卒業後、関西大学に進学し、1943（昭和18）9月に法文学部政治学科を卒業しました。同年10月に北海道帝国大学農学部農業経済学科に入学し、1946年9月に卒業、10月から大学院特別研究生となりました。1948年12月以降、農学部助手・講師・助教授を務め、1962年2月に「開拓農家の連帯性尺度化による調査と分

析」において農学博士号を取得し、1976年4月には文学部教授に就任しました。金田博士は農村社会学を専攻し、地域における農家の連帯性、農村の都市化による変性などをテーマとして研究をしました。また、1977年有珠山噴火、1982年浦河沖地震、1983年の北海道南西沖地震における奥尻島への津波などの災害を調査し、地域における防災問題について提言を行いました。1976年には北大百周年記念映画『大いなる楡』の制作委員も務められ、1984年に北海道大学を退職されています。

この度、ご寄贈いただいた資料は、

学生時代の受講ノート、教員時代の講義ノート・自筆原稿・研究記録フィルム、写真アルバムなどです。金田博士は若いころからカメラ撮影を趣味としており、戦後期の大学構内の風景や、生き生きとした学生の様子など、非常に優れたアングルの写真を撮影し、残しています。

大学文書館では、ご寄贈いただいた資料を整理し適切に保存しながら、展示や閲覧利用等を通じて紹介して参ります。

（大学文書館）



金田弘夫博士



講義ノート



クラーク像（1951年）



一般教養部（1951年）



古河講堂（1951年頃）



工学部（1952年）